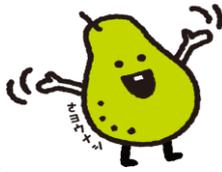


佐渡市幼稚園、小・中学校の先生方へ

きょういく さど



令和6年3月19日

第93号

佐渡市教育委員会

学校教育課

学習指導要領の趣旨を振り返る

教育次長 鈴木 健一郎

今年度の4月に佐渡に来て早くも1年が経過しようとしています。佐渡の教育が今より少しでも前進するために新たな施策も打ち出しながら少しずつ改善・充実を図っているところです。

さて、コロナ禍でスタートした学習指導要領は小学校より順次全面実施してから、5年目を迎ようとしています。「実施」から「よりよい実施」へ、そして折り返しの「点検」の時期に差し掛かろうとしているところです。全面実施後には、「令和の答申」「教育振興基本計画（第4期）」等が示されましたが、あらためて学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層求められることが強調されています。世界的にも、日本型学校教育の特徴である「特別活動」などが注目されるとともに、「PISA2022」の結果では3分野全てにおいてトップレベルの結果でした。これまでもトップレベルではありましたが、現状に満足せずさらに次のステップに進もうとする姿勢についても諸外国から評価されているところです。

実社会では、答えがある課題は稀であり、ほとんどは答えのない課題や正解がひとつではない問いで溢れています。そうした中では、自分なりの答え、つまり「納得解」や「最適解」をどう導き出すかが大事になります。子どもたちが、自ら課題を見つけ、納得できる答えを導き出し、その答えをもとに責任をもって行動したり選択したりできるようにすることが求められています。

先生方には、この折り返しの「点検」の時期において、あらためて学習指導要領の趣旨を振り返り、これからの未来社会を切り拓く子どもたちに、どのような資質・能力の育成が求められるのかを常に問い続けながら、日頃のご指導に励んでいただきたいと思います。

「かんがえ」て みませんか？

下越教育事務所 指導主事 平野 徹

- 「子どもに委ねる学び」では、「深い学び」は実現できないって本当？
- 子どもが自ら問いをもち、学び進めるには、どうしたらいい？
- 「授業に対話を取り入れても、学びが深まらない」って本当？



これらの問いは、先日発行したTeachers'2024*に掲載した問いです。今年度、各学校を訪問して授業参観し、協議を通して学び合う中で、少なからず聞こえてきた先生方の声です。みなさんならどうお答えになりますか？

不確実で混沌としたこれからの時代を生き抜いていかなければいけない今の子どもたちに必要な学びの姿は、教師がお膳立てした環境でのみ主体的に学ぶ姿ではないことは理解していただけたと思います。真に「子ども主語」の授業を実現するためには、私たちは自らの実践を省察し、これまでのこだわりやとらわれを見つめ直し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために自らの見方や考え方をアップデートし続ける必要があります。私たち自身の授業観、子ども観、学習観など多くの「観」の転換、つまり「観変え」が必要になるのです。

今年度も佐渡市教育委員会や各学校から多くの要請をいただき、学校訪問をさせていただきました。ありがとうございました。また、今年度は授業研究会への参加のほか、校内研修への参加（講義、ワークショップ等）などもさせていただきました。

また、校内研修のスタート時からかわり共に考えさせていただき「伴走型支援」も5校ほど実施させていただきました。先生方との対話の中で、これまでの授業づくりや校内研修についての「とらわれ」を解きほぐし、共に「観変え」ることができたのは貴重な経験であり、下越教育事務所と各学校との新たな関係が築けたのではないかと自負しております。今後とも、ぜひ下越教育事務所をご活用いただけると幸いです。

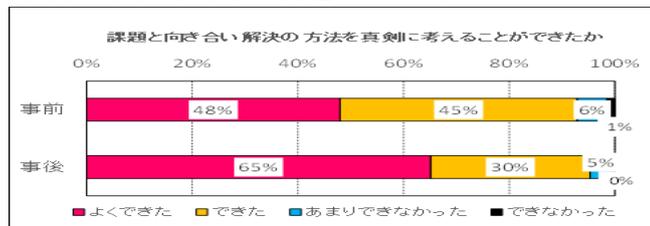
これからも下越教育事務所は「子どもまんなか授業」の実現のため、みなさんと共に歩んでいきます。

※ 2024年2月発行「教育下越」特別号、冒頭の問いを契機に、今後の授業づくりのポイントを紹介しています。ぜひご覧ください。

課題解決型職場体験を終えて

教育指導主事 齋藤 千賀子

勤労観・職業観を育むことが主な目的であった従来の職場体験を見直し、探究的な学習を重視する職場体験を目指して9年目になりました。今年度は92の事業所の協力のもと、市内中学校、中等教育学校、羽茂高等学校、真野小学校で実施しました。



「職場体験を通して、相川の魅力を深堀することができました。自分にはなかった視点で考える良い機会になったと思います。うまくいくことばかりではなかったけれど、仲間と協力して最後まで課題に向かって真剣に取り組めたと思います。今後も佐渡を盛り上げていけるように頑張ります。」

職場体験での生徒のふり返りです。事業所の課題を考えるを通して、佐渡への思いを深めています。

課題解決型職場体験はキャリア教育の一環であるとともに、総合的な学習（探究）の時間に位置付けられた学習です。課題設定・事前学習・事業所での活動・事後学習・発表と、これらにかかわる事業所とのやりとりなど、学校・事業所双方の取組は容易ではありません。それでも、「受け入れ側にも学びや気付きがあり、佐渡の未来を担う人材の育成にもつながる。」

「学校・生徒と地域事業者がつながるよい取組だと思ふ。受け入れ側も改めて自社の取組、課題を考えるよい機会をもらっている。」といった事業所からの声をいただいています。今年度の成果や課題を明らかにするとともに、課題解決型職場体験を持続可能なものにしていくという視点で改善を図っていきます。

「研修支援事業」の有効活用を

教育指導主事 村川健太郎

現行の「研修支援事業」は、平成22年度を初年度とする「学習意欲向上プロジェクト」から、拡充・発展を重ねながら継続しています。従前の「学習意欲向上プロジェクト」という事業名では、研修の企画運営という内容がイメージしにくいという声があり、一昨年度から「研修支援事業」として実施しています。

ご存じのとおり、各中学校区で30,000円の予算を上限に「外部講師招聘による研修活動」または「島外先進校等視察研修活動」のいずれか（予算内なら両方も可）で職員研修を実施していただくものです。

ある程度自由度は高いものの、コロナ禍では制約が多く、実施率は50%以下でしたが、徐々に回復し、現時点ではほぼ全中学校区で実施完了しています。その内訳としては、「外部講師招聘」は12件、その内オンライン研修が6件、対面研修が6件です。「島外先進校等視察」は県内1件、県外1件の2件でした。（合計が中学校区数の13を超えているのは、予算内で複数回実施のケースがあるためです。）講師は、大学の教授、准教授や病院関係、市外の教育行政指導主事や管理職等、多岐に渡っています。

年度当初の学力向上施策等方針説明会の折に、各中学校区で話し合う機会もあると思います。幹事校にはご負担をおかけして恐縮ですが、不明な点等ありましたら遠慮なくご相談ください。

各中学校区が課題解決に向けた研修を企画運営し、創意ある教育活動を実践・継続することが大切です。職員集団の学びが、児童生徒の未来につながるものと確信しています。



おめでとうございます

○令和5年度文部科学大臣優秀教職員表彰において、佐渡市から2名が優秀教職員として表彰されました。

川岸 嵩明 さん 新穂中学校 教諭 （特別活動・部活動 若手奨励賞）
坂井亜矢子 さん 河原田小学校 主任 （学校運営改善）

※ 今年度も残りわずかとなりました。年度末まとめ・新年度準備と忙しい中だからこそ、お互いに声を掛け合い、笑顔で仕事ができる良好な職場環境づくりにも努めていきましょう。